街道を歩く

東海道：02朝明町柿ー羽津町（四日市市）

朝明殿 長明寺

文治年間(1185-90)に蒔田相模守宗勝が築いた城跡といわれる。
境内には濠と築塀がめぐり参道正面には文化3年(1806)築の参詣棟、脇の鐘楼は延宝年間(1673-80)との伝え。

鏡ヶ池跡

天平12年(740)聖武天皇が伊勢行幸の折この地を通った時一陣の風が吹き天皇の笠が飛ばされた。池で洗濯をしていた娘が拾って差し上げた。これが縁で娘の家に泊られた。翌日は澄み切った晴天で天皇を見送る娘の姿が池に鏡のように映ったとか
(娘の家、松原町旧家田村家に伝わる)

八幡社址（祭神応神天皇）

弘安2年(1279)富田地頭佐原豊前守政盛が八幡大菩薩を東富田に勧請にはじまる
明治42年鳥出神社に合祀され碑が建つ
昭和42年社殿が創建され西町の産土神として戻される。

明治天皇御駐輦跡（小学校正門前）

天皇はこの近く茶屋町広瀬語五郎衛宅に四度寄る。明治元年(1868)京都から東京に向う途中ご休息、焼き蛤賞味される。
その年京都に戻られる時、それから明治2年東京へ遷都の時、4度目は明治13年陸軍大演習をご覧になる県下行幸中。

［弥次・喜多］
荷物持ちの争いで焼蛤の皿ひっくり返る
”膏薬はまだ入れねどもはまぐりの
やけどにつけてよむたはれうた”

力石（32貫120KG）

明治の中頃この村にある2ヵ寺を再建するにあたり土台石の奉納があった。
近郊より奉仕の人が集まり休憩の時体力の競い合いおこなわれたその時の石との伝え。

富田（東海道間の宿）

古代は海であった、羽津にある志氏神社あたりは四泥の崎といわれていた。干潟が浜州となり陸地となった。
延紀12年(912)鳥出神社は現在地にあったという。
宿駅制度が出来たころから小学校正門、区民センターあたりは茶屋が並んでいたという。 名物焼き蛤。

鳥出神社（祭神日本武尊他）

「倭建命の陵造のとき八尋の白鳥に化して天翔り、浜に向いて飛び行きぬと・・・・白鳥飛び出給いし土地・・・」。
富田は鳥出の訛りとか
本殿は神宮の月読宮(昭和4年)、鳥居は内宮の2の鳥居(平成7年)を拝領したもの
本社は天正年間(1573-92)より神宮の古材を拝領する由緒を持っている。

茂福神社（祭神建速須佐男尊他）

応永28年(1421)攝津守政平が越前朝倉よりこの地に赴任する時建速須佐男尊、天照大神を祀ったのがはじまりとか
その後城主茂福掃部輔みつ豊が受け継ぐ
永禄10年(1567)茂福城落城したが茂福の産土神として残る。

茂福城址

平維茂の子孫平貞冬が越前朝倉よりこの地に来て城を築き朝倉を名乗った。
永禄10年(1567)城主茂福掃部輔みつ豊が滝川一益に長島城に誘い出され殺され、城は一益の目代として山口を置いた。
碑の位置は城主郭の北西角に当たる。

志氏神社（祭神気吹戸主神他）

シデイ

垂仁天皇の御代のとき鎮座、高野の御前と称え奉られる
壬申の乱(672)時天武天皇が吉野から鈴鹿を経ての途次迹太川の辺で伊勢神宮を望拝したことにはじまる。
シデとは御幣のこと、天皇が四方に幣を班(ワカ)ち祓いの神、気吹戸主神を祀り禊祓いされた御跡を奉る神社
境内は前方後円式古墳、前漢時代の鏡、車輪石出土。